

第37回 アジア獣医師会連合(FAVA)代表者会議報告

平成27年9月23日(水)～27日(日)、モンゴル国ウランバートルにおいて、第37回アジア獣医師会連合(FAVA)代表者会議が開催され、本会藏内勇夫会長が出席した(古賀俊伸事務局長 随員)。会議では、藏内会長からスペインで開催された世界獣医学協会/世界医師会のワンヘルスに係る国際会議(GCOH)において、日本医師会の横倉会長とともに東日本大震災に関する獣医師と医師の対応及び日本における医師会と獣医師会の協力の状況について講演を行ったことが報告された。

また、日本獣医師会が平成4～14年にかけて実施した獣医師国際研修の修了者9名が藏内会長を招待し、歓迎会が開催された。歓迎会では、すべての修了者がモンゴルの獣医界でキーパーソンとして活躍されていることが紹介され、また、日本獣医師会への感謝の意が表された。

1日目(9月24日)の会議は、前夜から早朝にかけての降雪のため、航空機の発着のスケジュールが乱れ、ウランバートルに到着できない出席者があった。そのため、未着の出席者のカントリーレポート(各国の状況報告)を2日目に変更する等の措置が取られた。

会議の冒頭にシエーン ライアン FAVA 会長(シンガポール)から開会のあいさつが行われ、次にウルチトグトク ツェデフモンゴル獣医師会会長から歓迎のあいさつが述べられて、その後アチャリヤ サイラスータ FAVA 事務局長(タイ)により、会議が進行された。

まず、カントリーレポートとして、出席各国から獣医事を巡る状況の報告が行われた(図1)。

日本からは、藏内会長が2015年5月にスペイン マドリードで開催された世界獣医学協会(WVA)/世界医師会(WMA)のワンヘルスに係る国際会議(GCOH)において、日本医師会の横倉会長とともに東日本大震災に関する獣医師と医師の対応及び日本における医師会と獣医師会の協力の状況について講演を行ったことを報告した。

さらに、第2回 GCOH の日本での開催について検討していること、2016年2月の日本獣医師会獣医学術学会年次大会にチャン WVA 次期会長、アチャリヤ FAVA 事務局長を招いて、日本医師会の横倉会長も加わってワンヘルスに関するシンポジウムを開催する予定であることを報告した。

ネパールからは、ネパール地震の状況が報告されるとともに、各国からの支援に対して感謝の意が表された(FAVA 各国から、総額4,398米ドル≒53万円が寄付された。：日本からは10万円の見舞金を送金済み)。

次に、各種報告に入り、ライアン会長からの会務報告(2日目に協議される予定の会則、施行細則の改正に関する報告)、アチャリヤ事務局長からの会務報告(各国が行っている研修プログラムの報告)が行われて承認され、1日目の議事を終えた。

議事終了後、モンゴル獣医師会の招待による祝宴が開催され、各国代表者が懇親を深めた。

2日目(9月25日)には、遅れていたすべての代表者がウランバートルに到着し、まず、1日目に出席できなかった国のカントリーレポートが行われた。

韓国からのレポートでは、2017年8月に韓国・仁川で開催が予定されている世界獣医学大会の準備状況が報告され、各国からの参加が呼びかけられた。

台湾からは、2015年になっても同国の野生動物において狂犬病が発見されていることが報告された。

次いで、各種課題の検討に入り、まず、会則、細則の改正、FAVA 大会運営規則の改正について、ライアン会長からそれぞれの改正案が示され、協議が行われた。

会則、細則については、役員の任期等について、大会運営規則については、大会ホスト国が大会終了後にロイヤリティー(いわゆる看板料)としてFAVA事務局に納入する額(改正案においては、有料参加者1人当たり10米ドル、有料参加者が500人に満たない場合は5,000米ドル≒60万円を支払う)について意見交換が行われた。今後、今回の意見を踏まえて取りまとめた改正案を事務局から各国に送付し、意見を聴取して修正したうえで、ベトナムにおける代表者会議に改正案を上程すること



図1 藏内会長(中央)からのカントリーレポート



図2 代表者会議を終えて、前列左端がツェデフモンゴル獣医師会会長、左から3人目が藏内会長、4人目がアチャリヤFAVA事務局長、5人目がライオンFAVA会長、6人目がチャンWVA次期会長

ととされた。

さらに、FAVA Strategic Action Plan 2016-2020 について、各国が「FAVA の影響力」、「FAVA のリーダーシップ」、「FAVA の財政的な安定」の3つのグループに分かれて意見交換を行った。日本獣医師会は財政的な安定のグループに振り分けられ、藏内会長は、① WVA—WMA の連携、各国における医師と獣医師が連携したワンヘルスの推進を効果的に行うため、アジア地域を代表する獣医師団体と FAVA が連携すべきである、② 獣医関係の国際企業の企業本部が存在する国においては、その国の獣医師会が本部に直接協賛を呼びかけるべきである、との意見を述べた。

午後からは、今後の会議の開催地について協議された。

まず、2016年 FAVA 大会（ホーチミン）開催予定のベトナム獣医師会から、準備状況が報告され、各国からの参加が呼びかけられた。

2018年 FAVA 大会の開催地については、インドネシア（バリ）とマレーシア（サラワク）両国が立候補し、プレゼンテーションが行われ、投票が行われた結果、インドネシアでの開催が決定した。

今後の FAVA 大会、代表者会議の開催予定は以下のとおりである。

・ FAVA 大会

- 第 19 回大会 2016 年 9 月 7～9 日
ホーチミン（ベトナム）
- 第 20 回大会 2018 年秋 バリ（インドネシア）
- 第 21 回大会 2020 年秋
未定（候補地マレーシア）

・ 代表者会議

- 第 38 回代表者会議 2016 年 9 月
ホーチミン（ベトナム）
- 第 39 回代表者会議 2017 年 8 月 仁川（韓国）
- 第 40 回代表者会議 2018 年秋
バリ（インドネシア）

最後にその他として、世界動物保護協会（WAP：World Animal Protection）、アジア保全医学学会（ASCM：Asian Society of Conservation Medicine）の両協会から活動報告が行われた。

ASCM からは岐阜大学 柳井徳磨教授とソウル大学の木村順平教授が出席し、本年 10 月にミャンマーで開催予定の学会について情報提供と参加の呼びかけが行われ、会議は閉会された（図 2）。

3 日目（9 月 26 日）には、モンゴル獣医師会の案内でウランバートル大学獣医学科を訪問し、施設見学を行った。同学での獣医学生の教育年限は 5 年間、合計 1,000 名の学生が就学しているとのことであった（図 3）。同学では JICA の国際協力プロジェクトが実施されているとのこと、日本から派遣された元北海道大学の梅村孝司教授と折よく面談することができた。

その後、動物用のワクチン、診断キット等を製造している国立バイオコンビナートを見学した後、午後は、ウランバートル郊外に案内され、モンゴルの伝統的なゲルの内部、その生活様式を見学した。

3 日目の夕刻、日本獣医師会が平成 4～14 年にかけて実施した獣医師国際研修（英語名 TP-FAV：Training Program for Asian Veterinarians）の修了者 9 名が藏内



図3 ウランバートル大学講義室にて獣医学生と、2列目右端が藏内会長



図4 藏内会長を歓迎する国際研修修了生。左から6番目が藏内会長、右隣がツェデフ現モンゴル獣医師会会長、左隣がルーラグチャモンゴル獣医師会初代会長

会長を招待し、歓迎会が開催された（図4）。

現モンゴル獣医師会会長ウルチトグトク ツェデフ氏、初代モンゴル獣医師会会長ソドゥノムダルジャ ルーラグチャア氏をはじめ、すべての修了者がモンゴルの獣医界でキーパーソンとして活躍されていることが紹介され、また、日本獣医師会への感謝の意が表されて、20年前に日本獣医師会がまいた種が着実に実を結んでいることを知らされた。

この研修事業では、アジア14カ国から144名の研修

生を受け入れて（うちモンゴルからは19名を受け入れ）、国内5大学で研修を実施していただいたが、アジア各国からの評価は非常に高く、研修修了者はそれぞれの母国で活躍している。FAVA代表者会議、FAVA大会等において、成長した研修修了者に会うのは日本獣医師会関係者にとって大きな楽しみである。

すべての予定を修了した9月27日早朝、ウランバートルを出発し、帰途についた。